



交渉編



「だもんで、いまはほんとに無理なんスよあ〜」
 「だもんで、話がちっとも進まないんです」
 「だもんで、これといった対策もなく……」
 「だもんで、フリーズをフランクかつリズムミカルに言い換える妙。」
 「だもんで、ラテンのリズムで煙に巻け！ ウーッ、ダモンデー！」

だもんで

「困ったとき、オトナはアレするのだ！」
 「まあ、そのことについては、アレしますから」
 「最悪、あとでアレしときますから」
 「これは、すぐアレしますから、それまで待つんです」
 「たとえ、のちに自分が苦しむことになるうちは、アレするのだ！ とてつろで、アレしてとれなのだ！」

アレしますから

もしアレなら

「先方が不機嫌な感じで黙ってしまったとき、オトナはアレを持ち出すのだ！」
 「もしアレなら、午後からうかがいまししょうか？」
 「もしアレなら、見種もりだけでも出しまししょうか？」
 「もしアレなら、それぶつにマレンジしてみますか？」
 「もしアレなら、マレってべつなのだ！」

交渉編



あのですねー

「開口一番、「あのですねー」。オトナにはオトナの切り出し方があるのだ。」
 「あのですねー、六本木ヒルズの件ですが……」

えーとですね

「オトナは「えーと」「すら丁寧に言うのだ！」
 「えーとですね、六本木ヒルズは予算的に無理でして……」

でですね

「それですすね、なんて、長くて言うてらんねえんだよ。」
 「一言でも短く！ ですね、ですね、デデスネ！」
 「でですね、六本木公民館に会場を変更をしようかと」

そうなんです

「「さよつでしびれますか」だとかしこまりすぎで、「そんなんですか？」だと驚きすぎで、「そんなんですか？」だと同意しすぎ。そういう事情はなんとなく知っていいんですけど、やっぱりそういうことでしたか、そういうふうなことになるよあ、私もそういうふうになると思いますよ」というふうに微妙なニュアンスを表現する、これぞまさにオトナ語。経緯、親しみ、踏み込みすぎない礼儀、など複雑に入り組む感情を見事に表現している。」

なるほどですね

「営業マンなどが、非常に軽い相づちのようにして使う。腑に落ちたこと、入りくたること、親しみの3つの要素をひと言に込める熟練の技。日本語の正しさは度外視。」

